

統計表第5表を参照するにあたっての留意事項について

医療給付実態調査は基本的にはある時点における医療費について様々な角度から分析するものであり、時系列の変化を分析したものとはなっていない。また、時系列による変化を分析するには各年度の提出率等が異なるといった問題もあり、十分な留意が必要である。しかしながら、一方で今般公表した調査結果のうち、統計表第5表の件数分布の状況について平成26年度と平成25年度の結果を比較すると、以下に示す特徴があることが判明したためこれについて解説を試みた。本統計表を利用する際には十分留意されたい。

図1は点数階級別制度別である統計表第5表の入院における全ての制度の件数の合計について、平成26年度と平成25年度を比較したものである。これを見ると、特に14,000～15,000点の階級と27,000～28,000点の階級において差が大きいことがわかる。この2つの点数階級について、制度別の件数の伸び率を示したものが表1である。これを見ると、14,000～15,000点の階級において制度計で46.0%、27,000～28,000点の階級において制度計で80.3%と高い伸びを示していることがわかる。これを制度別に見てみると、14,000～15,000点の階級においては協会、組合、共済及び国保では約40～60%、後期高齢者医療でも約30%と、また27,000～28,000点の階級においては協会、組合及び共済では約30～50%、国保、後期では約90%と、どの制度でも共通して高い伸びを示していることがわかる。

図1 点数階級別入院件数 制度計

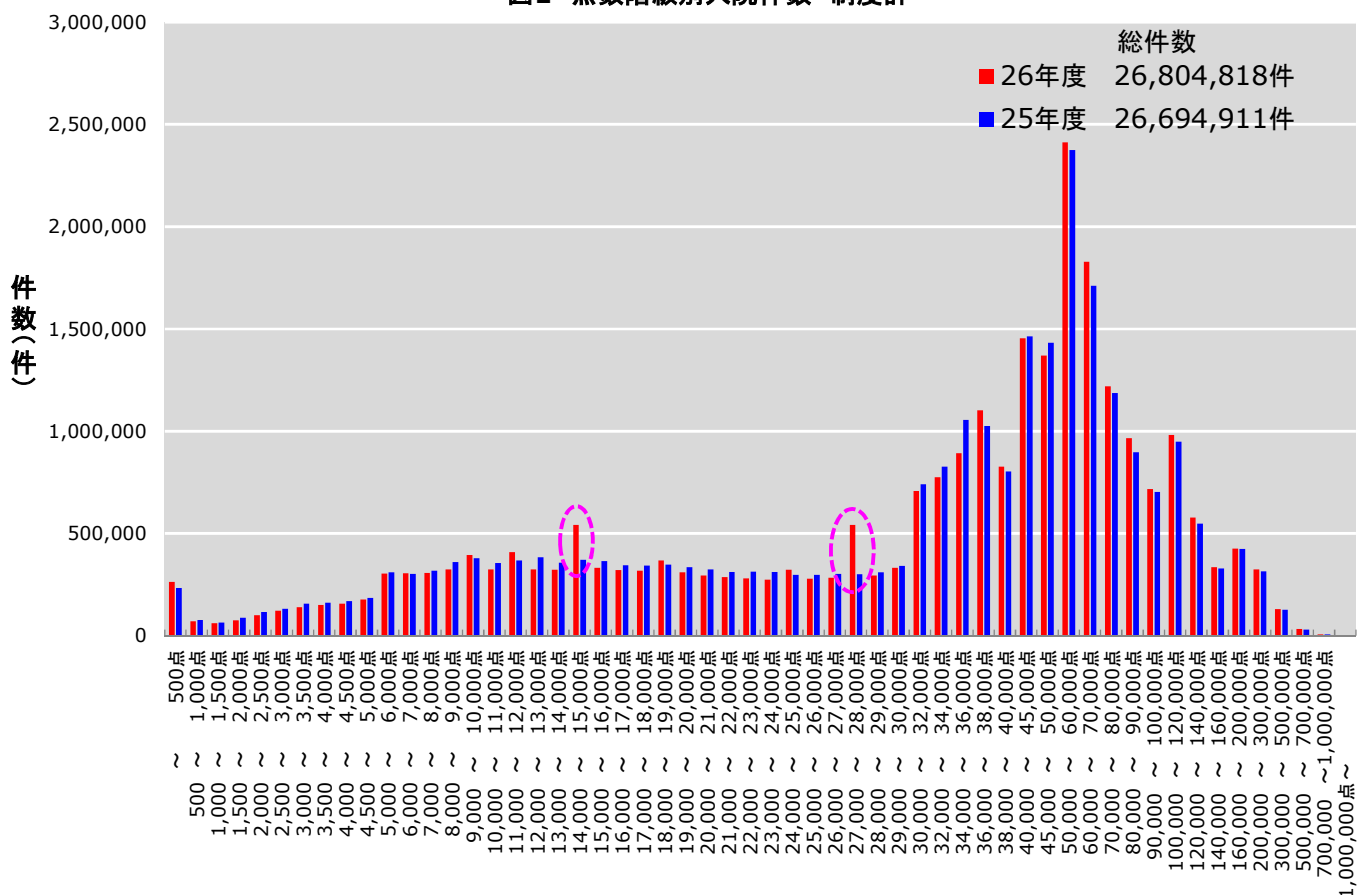


表1 平成26年度第5表入院(点数(金額)階級別、診療種類別、制度別、件数)の対前年度伸び率

点数階級	制度・計	協会(一般)	組合健保	共済組合	国民健康保険	後期高齢者医療
総 数	0.4%	1.5%	2.4%	▲3.1%	▲1.4%	1.1%
点以上 ～ 点未満						
14,000 ～ 15,000	46.0%	54.7%	61.4%	44.8%	60.4%	29.1%
27,000 ～ 28,000	80.3%	50.1%	49.1%	31.7%	87.2%	89.8%

協会の14,000～15,000点のレセプトについて、平成25年度と平成26年度の件数を疾病分類別に比較し、伸び率に対する寄与度の大きい上位3疾病を並べたものが表2である。これを見ると、この階級の件数の伸びについて「その他の消化器系の疾患」、「結腸の悪性新生物」、「良性新生物及びその他の新生物」の寄与度が大きいことがわかる。同様に、国保の27,000～28,000点のレセプトについて、平成25年度と平成26年度を疾病分類別に比較し、寄与度の大きい上位3疾病を並べたものが表3である。この階級の件数の伸びについて「白内障」、「その他の眼及び付属器の疾患」、「屈折及び調節の障害」の寄与度が大きいことがわかる。

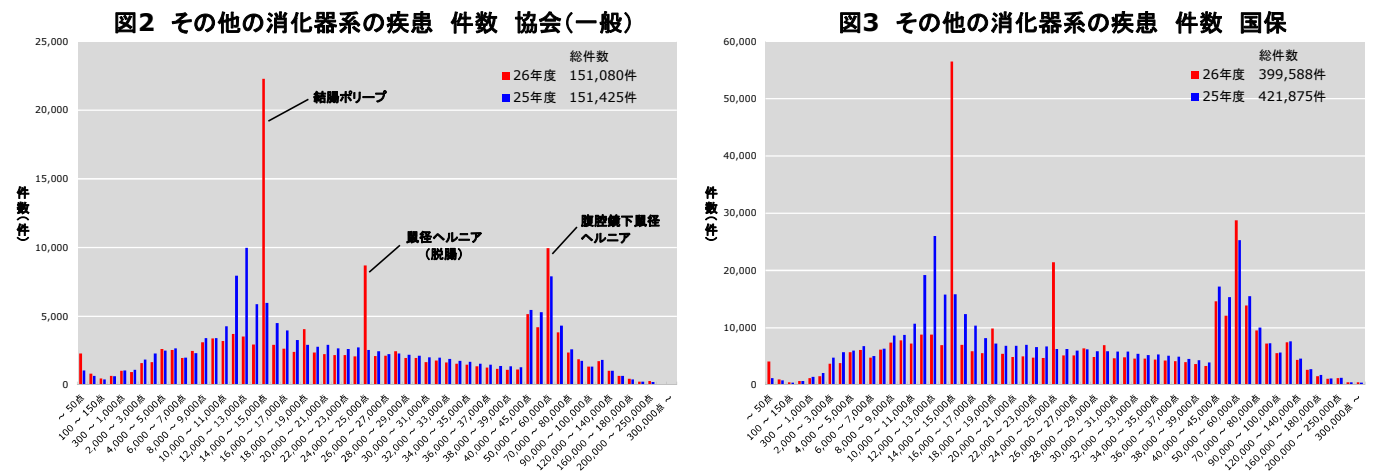
表2 疾病分類別 件数 対前年度比較(協会、点数階級 14,000～15,000点)

疾病分類コード	疾病分類	H26	H25	伸び率	寄与度
総	数	97,013	62,701	54.7%	54.7
1112	その他の消化器系の疾患	28,730	7,990	259.6%	33.1
202	結腸の悪性新生物	4,191	670	525.5%	5.6
211	良性新生物及びその他の新生物	5,884	3,100	89.8%	4.4

表3 疾病分類別 件数 対前年度比較(国保、点数階級 27,000～28,000点)

疾病分類コード	疾病分類	H26	H25	伸び率	寄与度
総	数	163,826	87,523	87.2%	87.2
702	白内障	52,004	2,063	2420.8%	57.1
704	その他の眼及び付属器の疾患	9,449	764	1136.8%	9.9
703	屈折及び調節の障害	6,764	94	7095.7%	7.6

次に、疾病ごとの点数階級別の件数分布を見てみると、図2は協会の「その他の消化器系の疾患」について平成26年度と平成25年度を比較したものであるが、これを見ると多くの点数階級では平成26年度は平成25年度に比べて件数が減少している一方、幾つかの特定の階級において件数が大幅に増加していることがわかる。特に伸びが大きい階級は14,000～15,000点となっており、全体で見たときに伸びが大きかった階級と一致している。また、この疾病分類における平成26年度の総件数が前年度とほぼ同数であることを考えると、この急激な伸びは、単にこの疾病分類の件数が増加したわけではなく、様々な点数階級に分布していたレセプトが、幾つかの点数階級に集約されたことによるものと考えられる。また、図3は国保の「その他の消化器系の疾患」について件数を同様に比較したものであるが、国保においても多くの点数階級で平成26年度は平成25年度に比べて件数が減少している一方、協会において増加していた点数階級の件数がやはり大幅に増加していることが見て取れる。このことは、医療保険制度の種類に関係なく、「その他の消化器系の疾患」の点数階級別の件数分布が変化していることを示している。



この原因について一概に述べることはできないが、医療保険制度の種類に関係なく変化が起きていることを考慮すると、原因の一つとして診療報酬改定による影響が考えられる。表4は平成26年度に新たに算定されるようになった短期滞在手術等基本料3の一覧である。この中で「その他の消化器系の疾患」に分類されうるもののうち当該の点数階級に分類されるものは「ツ K721 内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術 1 直径2センチメートル未満 14,661点」が該当する。結腸ポリープは大腸ポリープの一種であり、内視鏡による結腸ポリープの切除手術はよく行われる手術の一つである。平成25年度まで、この手術は出来高払いによる算定が行われていたが、平成26年度からは先に述べた短期滞在手術等基本料が算定されるように、すなわち包括診療によって行われるようになったのである。つまり、平成25年度までは入院日数の違いや点滴の有無等、診療内容の違いにより様々な点数階級に分散していたレセプトが、平成26年度には包括診療によって特定の階級に集約されるようになったという、診療報酬改定による影響がこの統計に表れているものと考えられる。また、同様に「結腸の悪性新生物」の点数階級別の件数(図4)を見てみると、「その他の消化器系の疾患」と同様に14,000～15,000点の伸びが極めて大きくなっている。これは、結腸ポリープは実際に切除してみるまでそれがポリープなのか、良性新生物なのか、悪性新生物なのかわからないことが多く、実際に切除した結果によって疾病分類が決定されるため、切除後に悪性新生物と判明したものが計上されていると考えられる。

表4 短期滞在手術等基本料3

イ	D237	終夜睡眠ポリグラフィー 1 携帯用装置を使用した場合	16,773点	ヲ	K617	下肢静脈瘤手術 1 抜去切除術	27,311点
ロ	D237	終夜睡眠ポリグラフィー 2 多点感圧センサーを有する睡眠評価 装置を使用した場合	9,383点	ワ	K617	下肢静脈瘤手術 2 硬化療法（一連として）	9,850点
ハ	D237	終夜睡眠ポリグラフィー 3 1及び2以外の場合	9,638点	カ	K617	下肢静脈瘤手術 3 高位結紮術	12,371点
ニ	D291-2	小児食物アレルギー負荷検査	6,130点	タ	K633	ヘルニア手術 5 鼠径ヘルニア（15歳以上に限る。）	24,805点
ホ	D413	前立腺針生検法	11,737点	ソ	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）（15歳以上に限る。）	51,480点
ヘ	K008	腋臭症手術 2 皮膚有毛部切除術	17,485点	ツ	K721	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術 1 長径2センチメートル未満	14,661点
ト	K093-2	関節鏡下手根管開放手術	20,326点	ネ	K721	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術 2 長径2センチメートル以上	18,932点
チ	K196-2	胸腔鏡下交感神経節切除術（両側）	43,479点	ナ	K743	痔核手術（脱肛を含む。） 2 硬化療法（四段階注射法によるもの）	13,410点
リ	K282	水晶体再建術 1 眼内レンズを挿入する場合 ロ その他のもの	27,093点	ラ	K867	子宮頸部（陰部）切除術	18,400点
ヌ	K282	水晶体再建術 2 眼内レンズを挿入しない場合	21,632点	ム	K873	子宮鏡下子宮筋腫摘出術	35,524点
ル	K474	乳腺腫瘍摘出術 1 長径5センチメートル未満	20,112点				

同様に国保の「白内障」の点数階級別の件数(図5)を見てみると、多くの点数階級では平成26年度は平成25年度に比べて件数が減少している一方、27,000～28,000点の階級は極めて件数が増加している。これについても表4を参照すると、「白内障」に分類されるもののうち当該の点数階級に分類されるものは「リ K282 水晶体再建術1 眼内レンズを挿入する場合 27,093点」が該当する。すなわち、「白内障」についても出来高払いから包括診療による算定への変更という診療報酬改定の影響が出ているものと考えることができる。

図4 結腸の悪性新生物 件数 協会(一般)

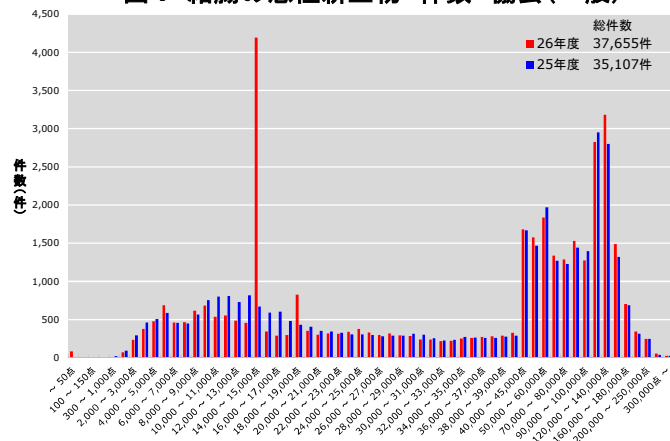
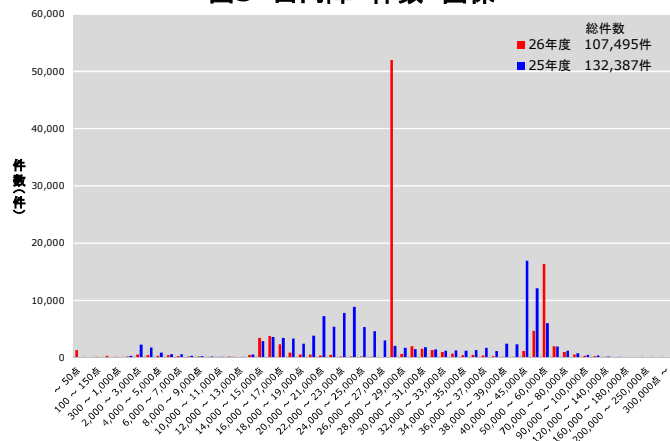


図5 白内障 件数 国保



問い合わせ先

厚生労働省 保険局調査課

電話:03-5253-1111（内線 3295）